

富山大学 教養教育院

令和4年度 第1回

# FD研修会報告

Faculty Development Report

# FD



Liberal Arts and Sciences at **University of Toyama**

## 目 次

開催趣旨と総括・・ 1

講演に関する質疑応答の要約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

### 参考資料

- ・ FD 研修会での説明スライド
- ・ 開催要項
- ・ 参加状況
- ・ 参加者アンケート

## 開催趣旨と総括

長引くコロナ禍や景気低迷、深刻さを増す気候変動や環境問題、デジタル化や ICT の進展といった急速に変容する現代社会において、新しい時代に即応できる人材育成という観点が大学教育にも期待され始めていると考えられます。

教養教育院では、今日的な観点で学生に身に付けさせるべき能力がどのようなものであるかを慎重に把握し、その要請にかなうような教養教育への変革に向けた検討を進める時機と捉えています。そこでは、「自ら考えて未知の課題に対応できる能力」や「多様な属性・考えの人々と協調して物事を進められる能力」の涵養が、大きな主題となってくると考えられます。

教養教育院では、新たな教養教育のスタートを令和 8 年度と定め、適切な教育内容や教育手法、実施体制の構築を図っていく計画です。その推進のために、他大学での教養教育の改革とその実際についての情報収集を行い、それを教員間で共有していくことが重要でしょう。そのため、教育改善推進委員会では、「他大学での教育プログラム改革の先行事例を学ぶ」ことを目的とした FD 研修会を、令和 4 年度内に複数回開催することを企画しています。その第 1 回となる FD 研修会を 7 月 28 日に対面・オンラインミーティングのハイブリッド方式によって開催しました。講師として金沢大学国際基幹教育院の澤田茂保院長をお招きし、「大学改革と教養(共通)教育 – 金沢大学の事例 –」との演題で講演をして頂きました。

金沢大学では、金沢大学憲章に謳われている基本的な教育目標を実現するために、「金沢大学グローバルスタンダード(KUGS)」として育成する人材の具体像を明確に定め、その KUGS に基づいた共通教育の体系的なカリキュラムの構築が図られています。澤田先生のご講演では、そのような教育改革実現の経緯、カリキュラムの概要、運営体制について、それを推進してきた当事者としての所見を交えて説明して頂きました。また、「GS 言語科目」として整備された英語教育について、その共通化やクラス編成・運営についての説明を受けました。平成 27 年度までは約 300 科目の共通教育科目があったものが、令和 3 年度には 6 群 31 科目の GS 科目に整理されたそうです。そこでは、他部局からの協力教員もあるものの、その 31 科目の担当者は原則として国際基幹研究院に新規に採用され、各科目開講の責任体制が確立されています。本学での教養教育改革に向けて有用な示唆に富んだご講演を頂くことができ、改革への意欲を大いに沸きたてられる FD 研修会となったのではないのでしょうか。

教養教育院教育改善推進委員会委員長  
彦坂 泰正

## 講演に関する質疑応答の要約

—それまで自分の講義は教養科目として教える意義があると思っていた教員としては、金沢大学グローバルスタンダード（KUGS）に基づく共通教育の体系的なカリキュラムの確立により、その講義が6つの科目群の中のどれかに当てはめられることに対して抵抗を示す者もいたのではないか。そういった教員をどのように体系化に引き込んだのか。

（澤田先生）

30あるGS科目は、新規採用教員がそれをゼロから構築したのではなく、それまで学部にはいた教員で科目毎にグループを作り検討したという経緯がある。最初に教科書を作成し、新規採用教員には金沢大学のコンセプトを認識してもらったうえで授業をしてもらい、その後各々で教科書を改訂するといった形で進めている。

既存の教員の一部は教養教育の作り上げに参加したが、全学出動体制とは異なり、全員が参加したわけではない。どちらかというとな熱意のある教員と当日の教育担当理事がけん引し、学内で議論を進めていった。その中で、教員自身が「これが必要だ」という考えを持つだけではダメで、金沢大学が考えているような教育あるいは人材育成といったものを加味していかなければならない、という趣旨の議論があった。

現在の教養教育は、そのような趣旨を本当に理解している教員が担当している。

—それまであった科目で、(カリキュラムメニューの体系化により)無くなった科目はあったか。

（澤田先生）

それまであった科目を(新カリキュラムへ)移行させたという例はなく、全て一新した。(カリキュラムメニューの体系化は)教員間の話合いではまともならず、教育担当理事がかなり汗をかいて方向づけをした。作り上げの時は非常に労力がかかったが、そこで硬直してはいけないと考えている。教養教育の教員も含めてコーディネーター教員と出来るだけコミュニケーションを取りながら、教科書の改訂などを行っている。

—講演で説明のあった、GS科目計15単位を選択必修としていることについて、(文系理系関係なく)全学共通の取扱いとしているのか。

（澤田先生）

文系理系関係なく共通の取扱いである。

—専門教育のGS科目は学部教員が担当するのか。

(澤田先生)

原則、学域GS科目は専門課程の学生向けの科目であり、専門課程の教員が金沢大学グローバルスタンダードに基づいて科目を作り、提供している。ただし、共通教育担当教員も学部での発展科目の開講に協力しており、(担当が)完全に分かれているわけではない。

—各GS科目は週何コマ程度開講があるのか。

(澤田先生)

1クラスあたりの履修人数は50人程度を想定している。(金沢大学の入学者数を踏まえ)およそ1科目について1200人履修させる必要があるため、科目の担当教員は1クォーターで20コマを担当することとなる。協力教員があれば、その分担当コマが減り、空きの出たコマで自学部科目や大学院科目を担当している。

((単純計算だと1クォーターあたり24コマ担当となるが、)コロナ禍でオンデマンド開講となり、1クラスあたりの履修人数枠を拡大している科目もあるため、そのような担当状況となる。)

—1人の教員が1クォーターあたり、およそ5コマずつ担当する形となるか。

(澤田先生)

そのとおりである。第1クォーターは初年次教育科目等の開講があるためいびつではあるが、およそ週に5,6コマ担当することとなる。

# 大学改革と教養(共通)教育 -金沢大学の事例-

澤田茂保  
金沢大学国際基幹教育院

- 金沢大学の大学改革（大学設置基準の大綱化以降）
- 金沢大学の中期目標・中期計画（第三期/第四期）
- 金沢大学の基幹教育（教養教育/共通教育）について
  - GS科目
  - GS言語科目（英語）
- 今後の課題（まとめにかえて）

## ○金沢大学の大学改革（大学設置基準大綱化以降について）

### 大学設置基準の大綱化：1996年度（課程・科目区分の廃止）

- ・「教養部」を改組し、《全学出動態勢》の下で「共通（教養）教育機構」を設置
- ・学際的/百花繚乱的(?)な開講科目の出現...、学生の選択を最大限に重視

### 国立大学の独立法人化：2004年度（「金沢大学憲章」制定）

#### ○第一期中期計画：2004.4～2010.3

- ・学部学科制から学域学類制を導入：2008年度（経過選択制、教育組織と研究組織の分離）
- ・8学部から3学域16学類へ

#### ○第二期中期計画：2010.4～2016.3

- ・スーパーグローバル大学創成支援事業採択：2015年度
- ・共通教育新カリキュラム構想/基幹教育構想

#### ○第三期中期計画：2016.4～2022.3

- ・現行カリキュラム（金沢大学<グローバル>スタンダードに基づく体系的なカリキュラム）の施行
- ・共通教育機構を廃して、「国際基幹教育院」を設置
- ・第4学域設置（融合学域）、国際基幹教育院に「総合教育部」を設置

#### ○第四期中期計画：2022.4～2028.3

## ○金沢大学の中期目標・中期計画（第三期と第四期に関して）

### 金沢大学 第3期中期目標・中期計画

（前文）大学の基本的な目標

金沢大学は、...、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組むこととし、その拠って立つ理念と目標を金沢大学憲章として制定している。

本学においては、金沢大学憲章に掲げる目標の達成に向け、持続的な“競争力”を持ち、高い付加価値を生み出し、21世紀における世界の先端に位置する真の“グローバル大学”を目指す。

(...)

○“金沢大学ブランド”の確立・定着を目指し、教育内容及び教育環境のグローバル化を徹底的に推し進める。

(...)

共通（教養）教育においては、教育体系の抜本的な改革により、グローバル社会で活躍するための基盤となる“人間力”を醸成する。

(...)

[1] 主体性を涵養する教育により、学士課程においては、専門分野における確かな基礎学力と総合的視野を身に付け、国際性と地域への視点を兼ね備えた人材を育成するとともに、大学院課程においては、高度な専門的知識・技能と学際性を兼ね備え、国際的視野を有する研究者及び専門職業人等、グローバル化する社会を積極的にリードする人材を育成する。

[1-1] 共通（教養）教育においては、新たに創設する国際基幹教育院を中心に、第2期中期目標期間に策定した金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS)に基づき、グローバル社会で活躍するための基盤となる能力を身につけさせるため、総合科目やテーマ別科目、一般科目を再編・集約した30のグローバルスタンダード科目 (GS科目)を中心とする体系的なカリキュラムを実施する。

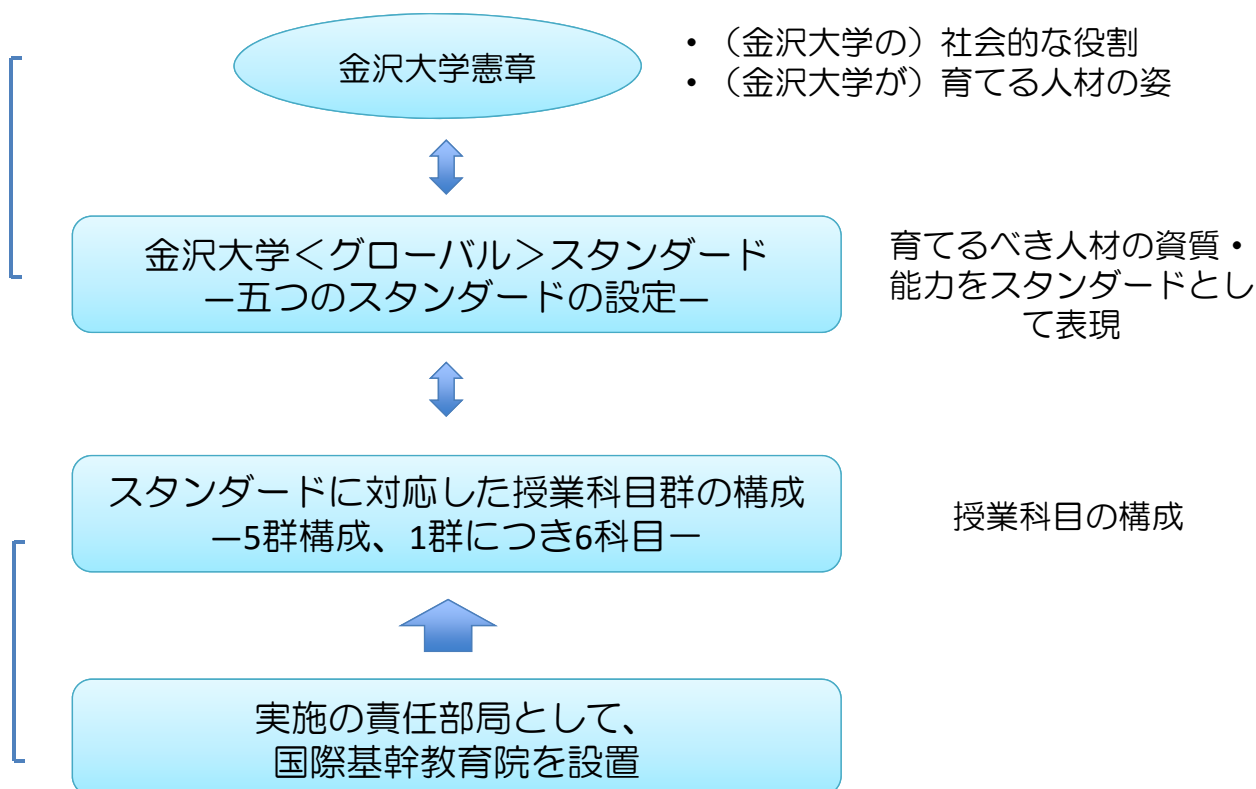
(前文) 法人の基本的な目標  
 金沢大学は、… 「**地域と世界に開かれた教育重視の研究大学**」の位置付けをもって…。  
 (…)  
**金沢大学憲章**に掲げる理念に則り、**北陸の中核都市**に立地する世界に誇る総合大学として  
 … 「…する研究開発」や「…できる人材育成」を一層強化する。  
 (…)  
**世界トップクラスの研究大学を目指して**、… 世界最高水準の学術拠点形成を推進すると  
 ともに、**地方創生を含む持続可能で…を構築・展開する**。  
 (…)  
**時代の変化を見据えて積極的に社会変革を先導する気概**にあふれ、…**グローバルに活躍する人材**や**地方創生に寄与する…**の育成に向け… 専門性の深化と**異分野融合**を併せ持つ**学修者本位の教育**を実現する。

2. 教育  
 (4) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために**他の分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材**を育成する。

2. 教育に関する目標を達成するための措置  
 (4) 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、専門的知識や論理的思考力を持って社会課題の解決に資する能力を有し、グローバルに活躍する人材や地方創生に寄与する人材の育成に向け、**教学マネジメントの強化とデジタル活用の推進を図りながら、金沢大学が育成する人材の具体的な姿を示した金沢大学<グローバル>スタンダードを基盤に**、学域・学類の専門性に加え、異分野融合による学修者本位の教育を実現する。

38金沢大学 第4期中期目標・中期計画（素案）(mext.go.jp)

・金沢大学の基幹教育（教養教育/共通教育）の考え方





# 金沢大学ブランド人材の育成

金沢大学憲章で掲げる教育目標

専門知識と課題探求能力，さらには国際感覚と倫理観を有する  
人間性豊かな人材の育成

具体化

## 金沢大学<グローバル>スタンダード



グローバル化が不可逆的に進行する現在の国際社会において大学憲章に掲げる  
基本的な教育目標を実現するために，本学が育成する人材の具体的な姿

- 各人の立ち位置に課された人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たす
- 知識基盤社会の中核的なリーダーとなる
- 常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・体力・人間力を備える

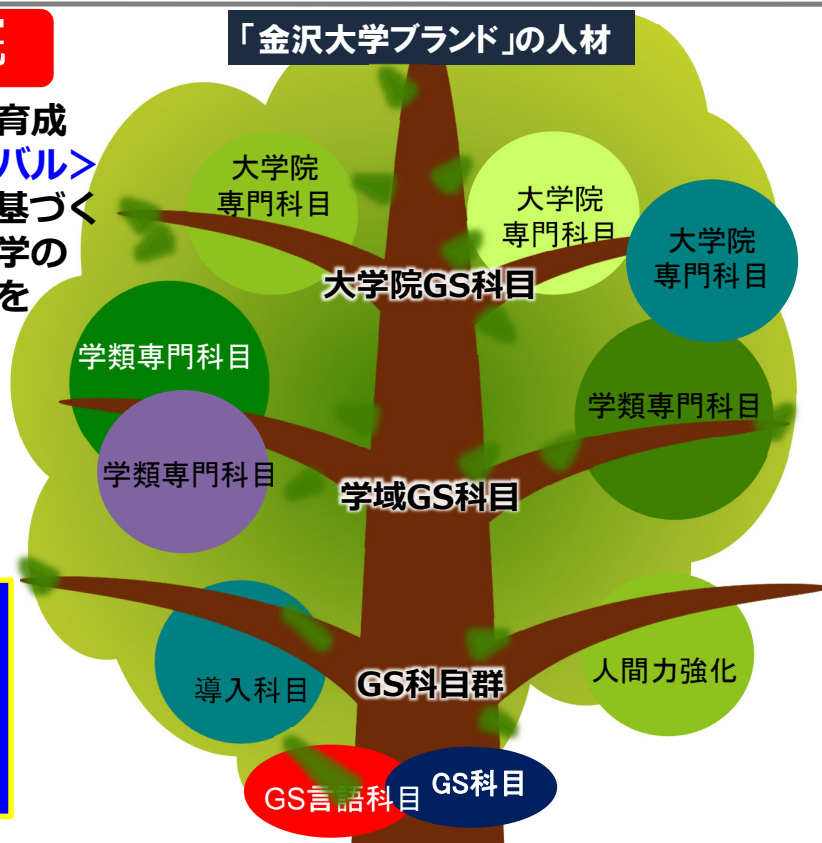
金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)を踏まえ、学類のAP, CP, DPを一体的に見直す/**共通(教養)教育の体系的なカリキュラムを実施**

## 国際基幹教育院

「金沢大学ブランド」人材育成のため、**金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS)** に基づく**基幹教育**の推進により、本学の教育全体の高度化と国際化を牽引することを目的として平成28年度に設立

基幹教育とは、「学士課程、修士課程及び博士課程それぞれの教育の基盤をなす教養的教育」のこと。

### 「金沢大学ブランド」の人材



# 金沢大学<グローバル>スタンダード Kanazawa University "Global" Standard (KUGS)

- スタンダード 1 自己の立ち位置を知る
- スタンダード 2 自己を知り, 自己を鍛える
- スタンダード 3 考え・価値観を表現する
- スタンダード 4 世界とつながる
- スタンダード 5 未来の課題に取り組む
- スタンダード 6 新しい社会を生きる (令和3年度新設)

金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS) | 金沢大学 (kanazawa-u.ac.jp)

9

GS科目

## 「共通教育」の体系的なカリキュラム

H27年度まで

H28年度から

R3年度から

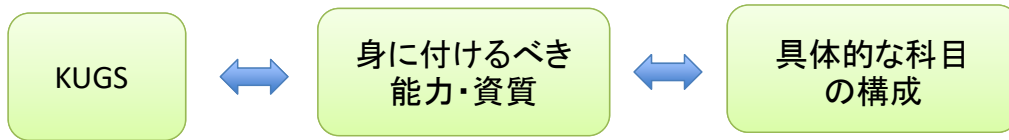
約300科目の共通教育科目 → **30のGS科目**に集約 → **6群5科目**新設

### GS科目一覧 (31科目)

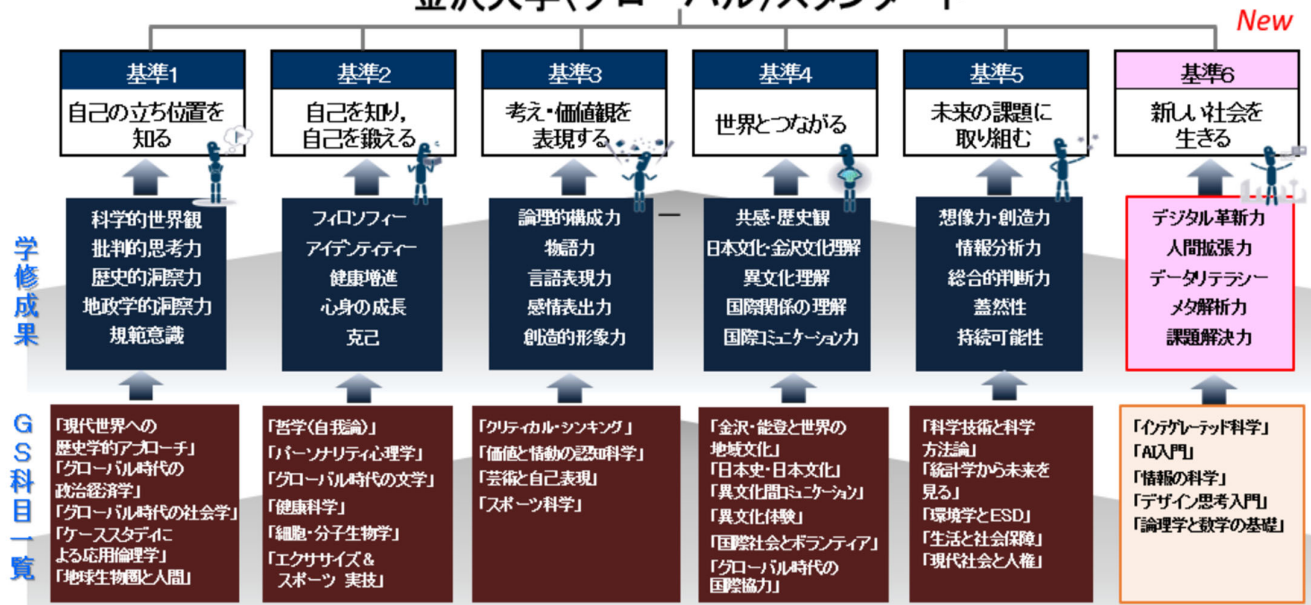
Society 5.0  
に向けて

new!

1. 自己の立ち位置を知る	2. 自己を知り, 自己を鍛える	3. 考え・価値観を表現する	4. 世界とつながる	5. 未来の課題に取り組む	6. 新しい社会を生きる
現代世界への歴史学的アプローチ	哲学(自我論)	クリティカル・シンキング	金沢・能登と世界の地域文化	科学技術と科学方法論	インテグレートド科学
グローバル時代の政治経済学	パーソナリティ心理学	価値と情動の認知科学	日本史・日本文化	統計学から未来を見る	AI入門
グローバル時代の社会学	グローバル時代の文学	芸術と自己表現	異文化間コミュニケーション	環境学とESD	情報の科学
ケーススタディによる応用倫理学	健康科学	スポーツ科学	異文化体験	生活と社会保障	デザイン思考入門
地球生物圏と人間	細胞・分子生物学		グローバル時代の国際協力	現代社会と人権	論理学と数学の基礎
	エクササイズ&スポーツ 実技		グローバル社会と地域の課題		



### 金沢大学〈グローバル〉スタンダード



- ・当初の制度設計では5群・30科目でスタート。その後STEAM教育で6群目を追加
- ・科目担当者(現在31科目)は、原則として、新規に採用。他部局の協力教員とともに、各科目開講の責任を負う。1科目あたり1,200人を目安に制度設計。

## KUGSに基づく共通教育

**導入科目：** 「大学社会生活論」  
「データサイエンス基礎」  
「地域概論」 } 《初年次教育科目》3単位

**Global Standard (GS) 科目：**

- ・《共通シラバス、共通教科書、共通評価》による
- ・5群でスタート、令和3年度に第6群を新設、1群～6群：31科目
- ・「1群～5群の各群から2単位を含む12単位」+「6群3単位」  
= 計15単位を選択必修 (各科目は1単位)

**GS言語科目：**

- ・《共通シラバス、共通教材、共通評価》による
- ・EAP科目(4単位)、TOEIC準備科目(4単位) = 計8単位

**基礎科目：** 理工系、医薬保健系学生の必修サイエンス系科目

**初習言語科目：** ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、スペイン語、ギリシア・ラテン語 (文系の必修科目)

学期：クォーター制を採用  
前期と後期をそれぞれ2分割し、8週間クラス  
完全クォーター制(インターバル期間)を実施

# 共通教育の上部の学士課程・大学院でGS科目を配置

大学院のGS科目群

科目名称	単位	充足要件
異分野研究探査	1	選択
研究者倫理	1	必修
知識集約型社会とデータサイエンス	1	選必 2単位
次世代の先端科学技術	1	
スマート創成科学	1	
イノベーション方法論	1	
人間と社会の課題	1	
技術経営論	1	選必 1単位
ヘルスケア・イノベーション	1	
破壊的イノベーションに向けた技術経営論	1	

専門教育のGS科目群

共通教育のGS科目群

区分	科目名など	単位
学域GS科目	「アカデミックスキル」	1
	「プレゼン・ディベート論」	1
	学域俯瞰科目	8
	データサイエンス応用系科目	
学域GS言語科目		2
専門基礎科目		
専門科目		

区分	科目名など	単位
導入科目	初年次教育科目として3科目	3
GS科目	6群を構成する31科目	15
GS言語科目	「EAP」、「TOEIC準備」	8
基礎科目		
初習言語科目		

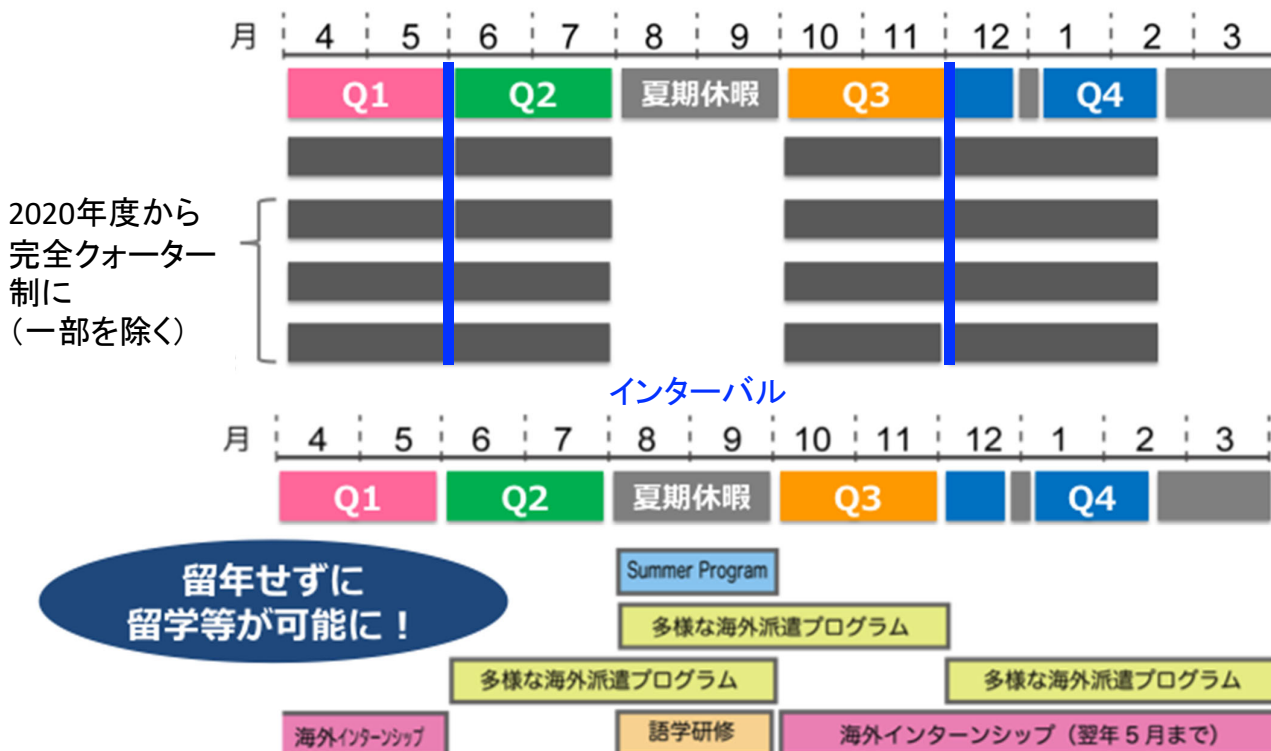
[人文学類ブック.indb \(kanazawa-u.ac.jp\)](#)

## 国際基幹教育院とKUGSカリキュラム:クォーター制

H28年度から

### クォーター制を導入

(開講のイメージ)



H27年度まで

H28年度から

「英語 I」 → 「GS言語科目」

4技能を実践的にトレーニング  
⇒より“使える”英語を身に付ける

期末試験として、  
全員TOEICを受験

**EAP**  
(English for Academic Purposes)

大学で学修、研究するための  
ツールとしての英語

**GOAL**

- 英語で行われる講義を理解する
- 留学先で生活・勉強する

**TOEIC準備**

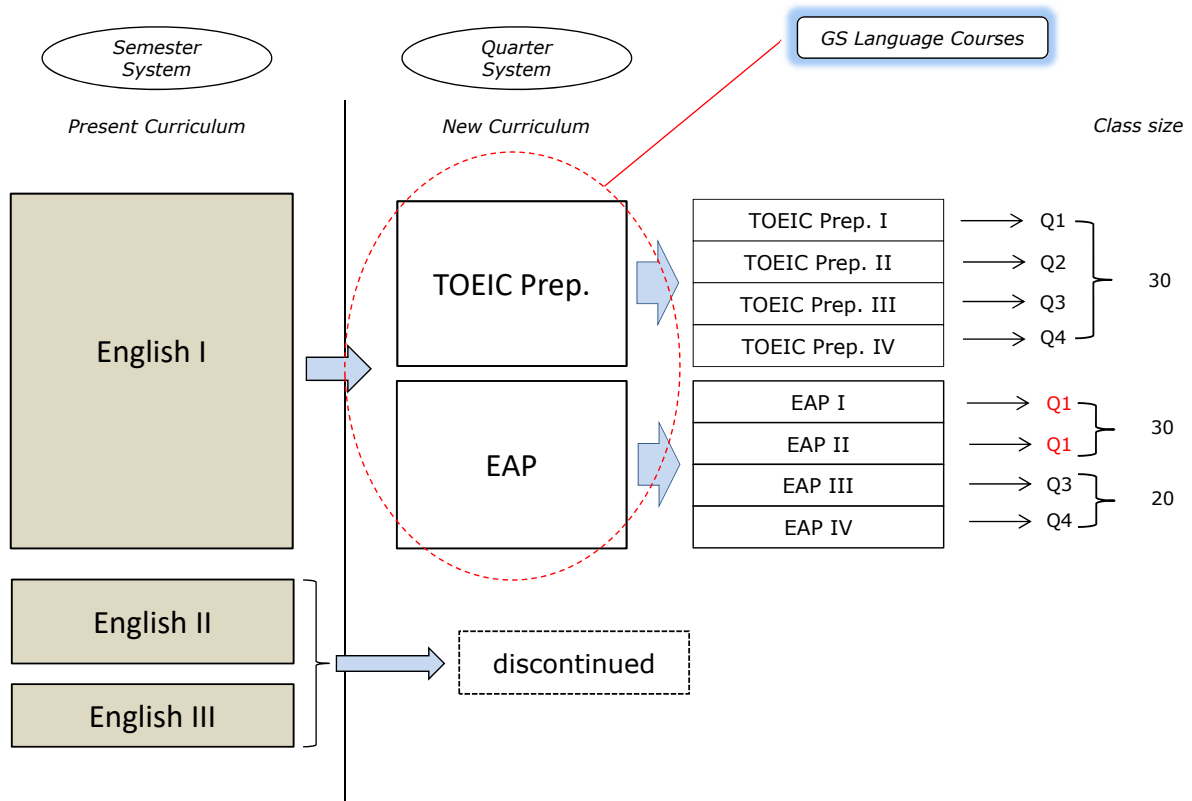
コミュニケーションツールと  
しての英語

**GOAL**

- 研究室で外国人と一緒に研究する
- 将来職場で外国人と接する

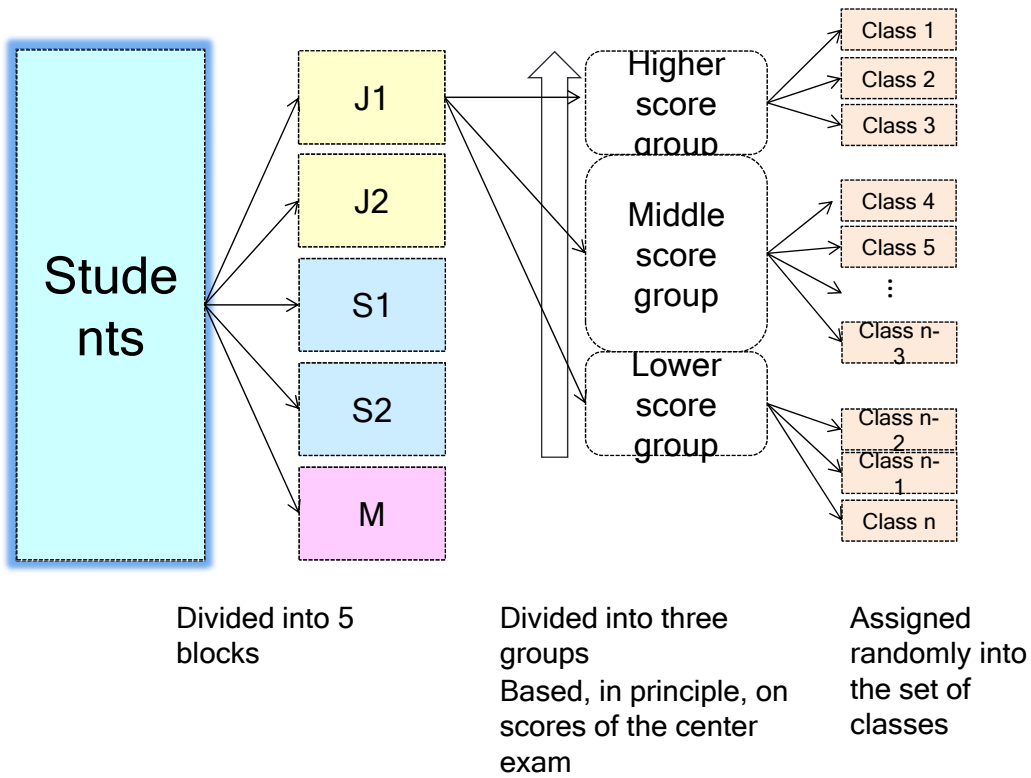
15

1. Class types of the new English programs (2016)



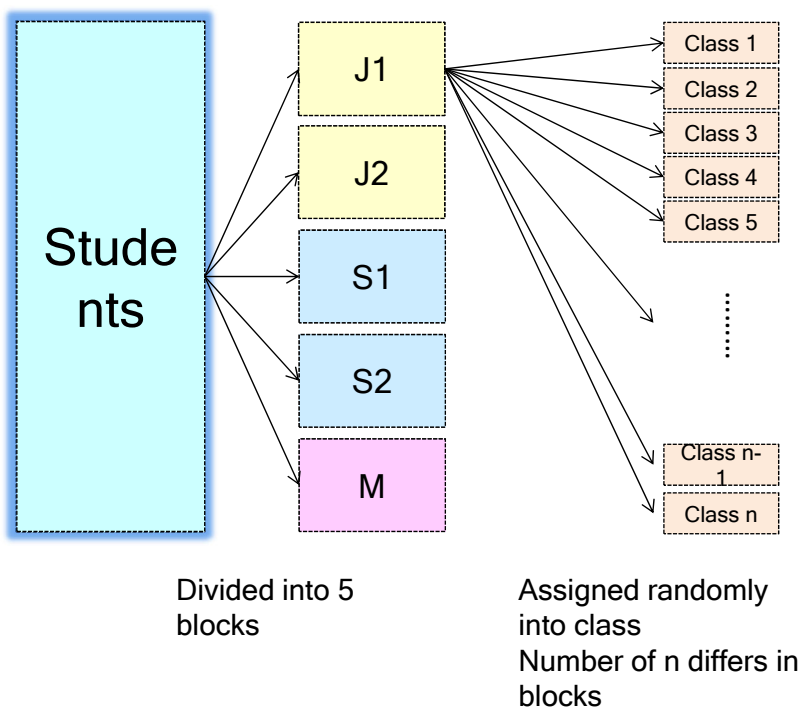
3. Method of assigning students and class size

TOEIC prep.



3. Method of assigning students and class size

EAPs



## リスニングとリーディングに分けたスコア変化

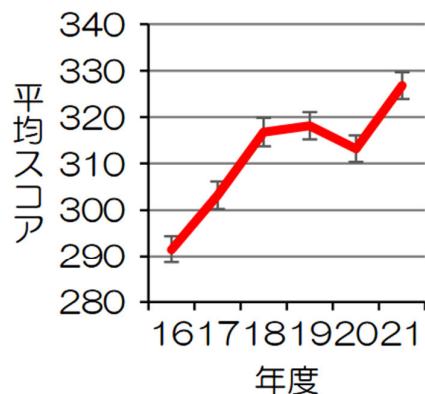


図 2. リスニングスコアの全学平均の推移

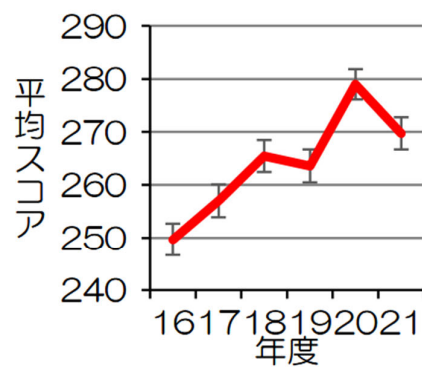


図 3. リーディングスコアの全学平均の推移

- 20年度はコロナ禍により新学期を5月に遅延開始、Q1は対面授業を禁止し、オンデマンドによる遠隔授業で始まる。
- TOEICは、Q2から徐々に対面授業を加えていったが、EAPはグループワーク不可のため結果的に全面オンデマンドで終わる。
- 21年度は感染防止策を取りつつ、対面授業でスタート。

## 今後の課題（まとめにかえて）

- 《教養教育》は基本的に多様であり、その理念に模範解答があるわけではない。
- 大学教育における《教養教育》の重要性は増している。（即効性のある教育と遅効的な教育）
- カリキュラムの体系性という罫
- 新規採用者で教育体制を作ることの功罪
- 新規に組織を設置することの光と影

## 教養教育院FD 実施計画

テーマ「教養教育の更なる充実を目指して 教養教育院FD2022 vol. 1」

### 1. 開催趣旨

今日、社会からは、長引く新型コロナウイルス感染症や景気低迷、深刻度を増す環境保全対策等に対応した人材育成が求められています。自ら考え、未知の課題に対応できる能力、多様な属性や考えの人々と協調して物事を進めていける能力を身につけさせることなどが求められています。

このことを踏まえ教養教育院では、令和8年度を新たな教養教育の改革年と位置づけ、学生に身に付けさせるべき能力を確認した上で、新たな教育内容、実施方法等について取りまとめていく計画です。

今回のFDは、本学教養教育の更なる充実に向け、改革を実施した大学の先行事例を学び、参考とすることを目的に実施します。

### 2. 開催日時

令和4年7月28日(木) 15:30~16:30(予定)

### 3. 開催会場

Microsoft Teams 会議によるオンライン配信

### 4. 対 象

本学教職員、非常勤講師

### 5. 次 第

#### (1) 開会挨拶・趣旨説明(2分)

武山 良三(教養教育院長)

#### (2) 「大学改革と教養(共通)教育—金沢大学の事例—」(30分)

講師: 澤田 茂保 氏(金沢大学国際基幹教育院長)

#### (3) 質疑応答(25分)

#### (4) 閉会挨拶(3分)

鳥海 清司(教養教育院副院長)



令和4年度第1回教養教育院FD  
「教養教育の更なる充実を目指して 教養教育院FD2022 vol. 1」参加状況

所属部局等	参加人数
理事	1
人文学部	1
教育学部	4
芸術文化学部	2
教養教育院	17
理学部	3
都市デザイン学部	1
医学部	3
教育・学生支援機構	1
国際機構	2
地域連携推進機構	1
研究推進機構	2
環境安全推進センター	1
職員	9
合計	48

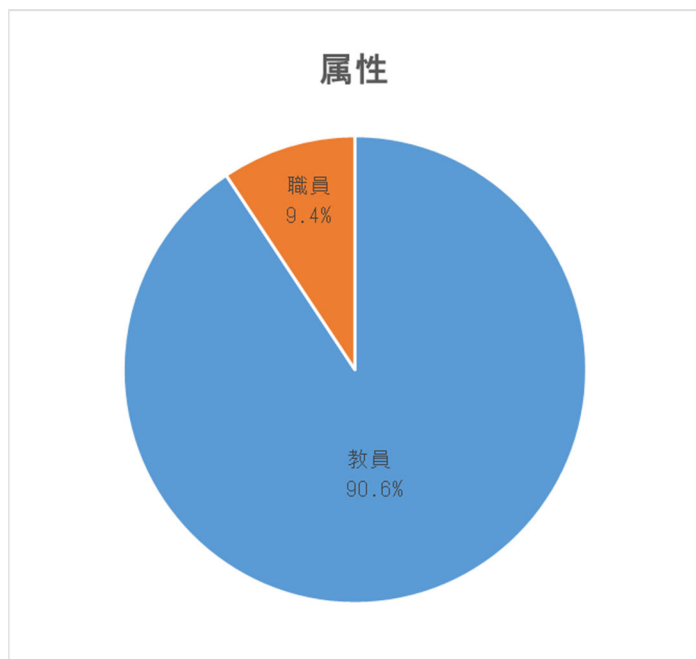
## 令和4年度第1回教養教育院FD参加者アンケート集計結果

(2022/8/2 時点)

FD参加者数：48名（内訳：教員39名、職員9名）

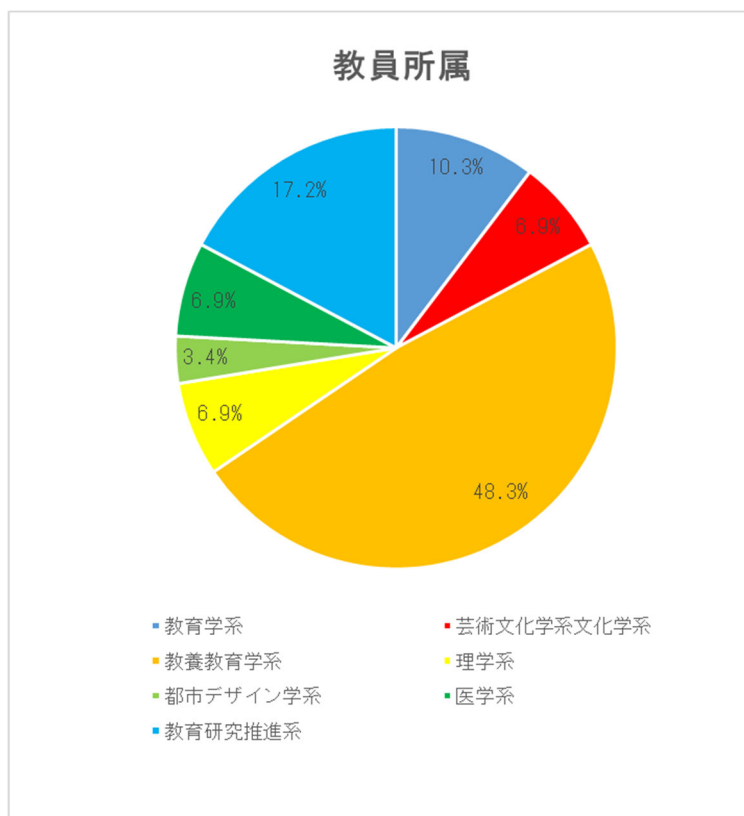
アンケート回答者数：32

### 1. 属性を選んでください



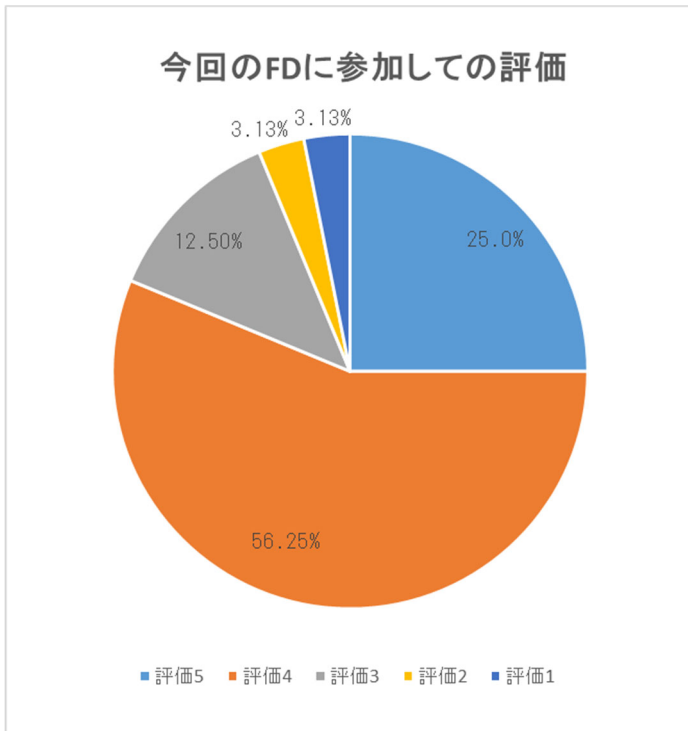
属性	人数
教員	29
職員	3
計	32

### 2. 所属を選んでください（教員のみ）



教員所属	人数
教育学系	3
芸術文化学系文化学系	2
教養教育学系	14
理学系	2
都市デザイン学系	1
医学系	2
教育研究推進系	5
計	29

3. 今回の教養教育院FDに参加しての評価を5段階評価で入力ください。



評価5	8
評価4	18
評価3	4
評価2	1
評価1	1
計	32

4. 今回の教養教育院FDについての感想やご意見があれば、ご記入ください。

(講演内容について)

- ・ 金沢大学の具体的な状況がわかりとても勉強になりました。有難うございました。
- ・ 全体像はよくわかったが、部局ごとの対応の温度差についてもう少しご説明がほしかった。
- ・ 大変に参考になりました。これだけの改革をやり抜くためには相当なご苦労があったことと拝察されます。本学で改革を進めるにはそれなりの覚悟が必要だと考えさせられました。
- ・ 金沢大学の教養教育の状況、ここまでのご苦労などもわかり興味深い講演でした。
- ・ ToEIC のスコアも開示していただき、今後の参考になるのではないかと思います。”
- ・ 本学の体制と違う形の取り組みは良い面悪い面双方を考える上で参考になった。
- ・ 歴史的な経緯を含めた体系的な話を伺い、大変勉強になりました。
- ・ 金沢大学の取り組みやその背景（同大学ではトップの強力なリーダーシップにより改革が進められた由）について状況を聴くことができたのは良かった。
- ・ 他大学の状況と本学の問題点が明確になった。時間が短かったが、要領よくまとめられていて、よかった。ありがとうございました。
- ・ 今後とも金沢大学とは、定期的に協議を重ねていくことが、双方の教育環境の充実に寄与していくと感じました。

(FD の運営について)

・学期末の多忙な時期は、できれば避けていただければと思います。

開催する日程を期末試験日程で忙しい時期とはずらしてもらわないと FD 内容に集中出来ません。

・一枚のスライドに文字数が多く、共有画面では読み取り難い場合があった。接続状態の問題で音声途切れて聞き取りにくい場合があった。彦坂先生と谷井先生が質問されたのはよかった。最後の鳥海先生の挨拶もよかった。

・事情により最後のディスカッションは参加できませんでした。Teams の音声が聞きにくく、そこが最大の不満点。発表者の発表についてですが、短い時間ですので大綱化の時代の話からではなく、現状の話中心で良かったと思います。短い発表時間です。なかなか依頼しておいて口をだすというのも難しいかも知れません。発表者の発表計画とのすり合わせの仕方について、一つ教訓を得たと捉えていただければ良いかと思います。

5. 今後、教養教育院FDで取り上げて欲しいとお考えのテーマがあれば、ご記入ください。

・学生の多様化(学修レベルの混合など)とそれへの対応。

・英語力向上を図るうえで、TOEIC 以外の試験は教養教育に組み入れられるか。

・社会保障に関する教育を共通必須科目とすることなど、独自の改革は可能か。

・教養教養や大学教育を学ぶ側の実感として、卒業して少し社会経験を積んだ方の意見を聞いてみたいです。

・授業改善の方策、組織改革や組織再編の期間でのカリキュラム編成と入試改革、他大学の特徴ある教養教育、など

・金沢大学の他に教養教育院のような組織がある大学と富山大学の教養教育院を比較・対照するような企画があれば、よいかもしれない。

富山大学教養教育院 FD活動報告  
令和4年度第1回教養教育院FD

教養教育院教育改善推進委員会  
委員長：彦坂 泰正  
上田理恵子  
片桐 達雄  
山岸 倫子  
大橋 隼人